ISPSハンダマッチプレー選手権

JGTO公式戦で14年ぶり開催

半田会長が語る マッチプレーの意義

一般社団法人日本ゴルフツアー機構（JGTO）の公式戦では14年ぶりの開催となるマッチプレー競技「ISPSハンダマッチプレー選手権」（1、2回戦＝8月1～2日、3回戦～決勝戦＝9月6～10日、千葉・浜野ゴルフクラブ）の開催発表記者会見が21日、東京・港区のANAインターコンチネンタル東京で行われた。〝ゴルフの原点〟ともいわれるマッチプレーをツアー公式戦で復活させた、国際スポーツ振興協会（ISPS）の半田晴久会長は、世界に通用するゴルファー育成を目指し、挑戦することを宣言した。

千葉・浜野ゴルフクラブで

井上誠一が設計した名門・浜野ＧＣがマッチプレーの舞台となる

半田会長は世界に通用するゴルファー育成に尽力すると話した

1、2回戦は8月1～2日 3回戦～決勝戦9月6～10日

2003年の「日本プロ」以来、14年ぶりにJGTOのツアーでマッチプレー競技を採用したことについて、半田会長は「昨年まで、ISPSグローバルゴルフマッチプレー選手権」では、ISPSグローバルカップとして〝グローバル化への対応〟〝スポーツの地域興し〟をテーマに開催してきました。今回は日本人ゴルファーの技術や戦術の向上、本当に世界で戦える枠組みを作ろうとの思いもあります。同じことはプロゴルフの世界にも言えるのだと思います」と発言していた。

3月に行われた世界マッチプレー選手権準決勝で、ISPS専属の谷原秀人が世界ランク1位のダスティン・ジョンソンをあと一歩のところまで追い詰めた戦いぶりを振り返り、「世界ランキング1位に対して谷原選手の一歩も引かない姿に涙が出る思いでした。志を持ってやっている彼がISPSの仲間ということを誇らしく感じています」と称賛。

今回、マッチプレーのトーナメント開催に踏み切った目的について「体力と精神力をギリギリまですり減らして戦うことが、日本人ゴルファーの血となり肉となります。必ず若い人たちの成長につながるはずです」と説明し、1対1の真剣勝負に武士の姿を重ね合わせた。

さらに「昨年、グローバルカップに出場した（全英オープン2回、全米プロ1回優勝のバドレイグ）ハリントンも、（11年マスターズ優勝のシャール）シュワーツェルも、日本選手はもっと海外の試合に出たほうがいいと言っていました。甘やかされない環境で戦える場を与える。交通費、宿泊費を我々が出して、若い有望な選手に海外を体験させたい。志のある人にチャンスを与えたいと思います」（半田会長）。ゴルフを通して社会貢献、人材育成を掲げるISPSが〝若き志士〟たちの挑戦をバックアップしていくプランも明らかにした。

マッチプレーで育った〝武士（もののふ）〟が世界を席巻する。半田会長は信念を持ってゴルフ界の活性化に尽力する気概をにじませた。

武士のような1対1の戦いが必ず 日本人ゴルファーの成長につながる

大西JGTO副会長も大きな期待！

現させました」と話した。

大西副会長は、青木功JGTO会長の言葉として「青木は選手たちに〝勝負強くなれ〟といつも言っています。ここぞというときにカップに入れる力が世界につながる。そういう部分を強化するには、マッチプレーを経験することが必ず役に立つ」と、14年ぶりに復活したマッチプレートーナメントに期待を寄せた。

谷原さはホストプロとして優勝を誓った（左は藤本）

谷原「テキサスで鍛えたメンタル出す」藤本「しっかり勝って決勝まで」

ホストプロとして同選手権に臨む谷原は「マッチプレーでこの賞金額ですから。勝てば一気に賞金王に近づくから値、目の色を変えてくると思う」と話した。

自身は過去のISPSグローバルカップで2年連続予選落ちとホストプロの役割を果たせずにいる。今回こその意気込みも強く「マッチプレーは、1ホールごとに戦略を立てながらプレーすることが大事。最終的にはメンタルだと思うが、テキサス（3月の世界マッチプレー選手権）で鍛えられたので、それを出したい」と3度目の正直に闘志を燃やした。

また、同じくISPS専属プロの藤本佳則は「1回戦からの出場なので、しっかり勝って決勝まで行きたい。いい状態で大会に臨めるように頑張りたい」と話した。

賞金総額2億1000万円、優勝賞金5000万円ともに国内最高額

半田会長が「日本にも世界にもなかった、新しい枠組み。前人未到の大会」を目指した、ISPSハンダマッチプレー選手権は異例ずくめの内容となった。

賞金総額（2億1000万円）、優勝賞金（5000万円）ともに国内最高額。出場資格は17年ISPSハンダマッチプレー選手権ランキング（※別表＝16年S）により決定する。

MBCシンガポールオープンから17年日本ゴルフツアー選手権までのJGTOツアートーナメント獲得賞金合計による順位）他の条件

出場人数は、1回戦出場者96人、17年WGCプリデストンインビテーショナル出場資格獲得者及び同ランキング上位者8人のシードを加えた計104人。

全10日程も1回戦から決勝戦まで、2か月にわたり7日間と大規模なものになった。半田会長は「出場選手にはスポンサー推薦もありません。ランキングだけです。今回の賞金総額は2億1000万円ですが、3億円くらいになると欧州やアジアからいらっしゃる選手が集まってくる。少しずつ賞金総額を上げていきたい」と、国内最高賞金額の更新に意欲を見せた。

6マッチを行う。大会

主なISPSハンダマッチプレーランキング（国内賞金のみ）

順位	選手名
1	池田　勇太
2	谷原　秀人
3	金　庚泰
4	小平　智
5	宋　永漢
6	片岡　大育
7	今平　周吾
8	宮里　優作
9	朴　相賢
10	B・ケネディ
11	藤本　佳則
12	宮本　勝昌
13	M・ヘンドリー
14	片山　晋呉
15	S・ノリス
16	武藤　俊憲
17	永野竜太郎
18	B・ジョーンズ
19	高山　忠洋
20	稲森　佑貴
21	S・ハン
22	黄　重坤
23	朴ジュンウォン
24	藤田　寛之
25	小田　孔明
26	J・パグンサン
27	H・W・リュー
28	P・マークセン
29	金　亨成
30	李　京勲
31	梁　津萬
32	石川　遼
33	S・H・キム
34	小池　一平
35	塚田　陽亮
36	任　成宰
37	C・キム
38	近藤　共弘
39	矢野　東
40	久保谷健一
41	W・J・リー
42	大堀裕次郎
43	T・クロンパ
44	A・ブランド
45	趙　珉珪
46	市原　弘大
47	圍田　畯輔
48	詹　世昌
49	山下　和宏
50	重永亜斗夢

ほか合計104人